

令和 2 年 7 月 9 日現在

機関番号：13902

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16K04466

研究課題名（和文）「学力」を育てるカリキュラムと教育評価の開発

研究課題名（英文）Development of curriculum and educational evaluation to foster "academic ability"

研究代表者

趙 卿我 (JO, GYEONGA)

愛知教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：30583140

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、思考力・判断力・表現力といった質の高い学力の効果的な育成につながる実践事例の調査と分析を行い、教育評価論の構築を目指している。パフォーマンス評価はアメリカの研究理論に基づいているが、本研究では日韓の教育方法学的アプローチ、すなわち、評価者としての教師の専門性が評価方法や授業内容にどう影響するのかを明らかにし、より実践的な教育評価の枠組みを提供している。具体的には、日韓の協力校との連携のもとでアクション・リサーチを行い、教科外活動を中心とした評価規準・方法を開発するとともに、授業改善を行うための実践活動としてパフォーマンス課題とルーブリック作りにおける具体的な評価方法を提案している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、パフォーマンス評価をナショナルカリキュラムとして導入・実施し、教育内容の見直しを行っている韓国におけるパフォーマンス評価の理論と実践の研究蓄積を批判的に検討し、その教育評価が小中学校の学習評価の教育制度・実践にどのような影響を与え、指導の改善にいかにか寄与してきたのかを明らかにしている。また、日本の小中学校でも幅広く用いることのできる評価規準と評価方法を開発するとともに、授業において「活用」を促進する指導方法の改善に取り組んでいる。本研究は、グローバル化が進む社会の中で国際的な視野を持ちながら日本の学校教育の現状を捉え改善していくための多面的・総合的な研究という意義を持つと考えられる。

研究成果の概要（英文）：This research aims to construct educational evaluation theory by investigating and analyzing practical examples that lead to effective development of "high-quality academic ability" such as thinking ability, judgment ability and expression ability. Although performance assessment is based on American research theory, this study clarifies how Japanese and South Korean educational methodological approaches, that is, how the teacher's expertise as an evaluator affects the evaluation method and lesson content provides a more practical evaluation framework. Specifically, we conduct action research centered on elementary schools in Japan and South Korea to develop evaluation criteria and evaluation methods centered on activities outside the curriculum, and also perform performance task and rubric as practical activities to improve lessons.

研究分野：教育方法学

キーワード：パフォーマンス評価 学力 教育評価 ルーブリック パフォーマンス課題 授業改善 活用 学校教育

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

近年、日本をはじめとするアジア諸国で「パフォーマンス評価」(パフォーマンス評価 = 遂行評価 / performance assessment) が注目を浴びるなか、平成 28 年、文部科学省によって「学校評価ガイドライン」の改訂、「『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について(報告)」などが示された。教育現場におけるパフォーマンス評価の教育実践を進める際には、学校教育という場の持つ可能性と限界を認識しながら、カリキュラムの編成や授業づくりに関してこれまでの研究蓄積を再検討し、それに基づく教育実践のあり方を常に問い直す作業が必要であると考えられた。特に、パフォーマンス評価は、何より教師の専門性に依拠して実践されるのであり、更なる評価の客観性や信頼性を高めるためには、教育活動の理論と実践方法を合わせて体系的に構築することが要求される。こうした問題意識に基づき、日本のパフォーマンス評価が小中学校教育の段階において教育制度・実践にどのような影響を与え、指導の改善にいかに関与してきたのかを明らかにし、新しい発展的教育のための実践的な枠組みの開発について考察する必要があると考えられた。

2. 研究の目的

研究の最終目的としては、思考力・判断力・表現力といった「質の高い学力」の効果的な育成につながるカリキュラム及び実践事例の調査と分析を行い、指導改善に繋げる教育評価論の構築をめざした。本研究では、日韓のパフォーマンス評価が小中学校段階の学習評価の教育制度・実践にどのような影響を与え、指導改善にいかに関与してきたのかを研究の目的とした。パフォーマンス評価論はアメリカの研究理論に基づいているが、本研究では日韓の教育方法的アプローチ、すなわち、評価者としての教師の専門性が評価方法や授業内容にどう影響するのかを明らかにし、より実践的な教育評価・授業改善の枠組みを提供した。また、1997 年から教育政策として取り組んでいる韓国独特のパフォーマンス評価及び学習評価の内実に迫りつつ、日本の小学校でのアクション・リサーチを経ることで、質の高い学力を育む実践的な学習評価システムへの有意義な示唆を与えている。

3. 研究の方法

(1) 韓国の一次資料による文献調査：児童生徒の質の高い学習プロセスを見取るためになされた教育改革と教育評価との関係及び学校現場での実践方法を探るため、下記の研究調査を進めた。韓国におけるパフォーマンス評価の理論を明らかにするために、すでに収集している教育課程評価院(KICE)、韓国教育開発院(KEDI)や教科書研究財団(KTRF)が発行した研究資料をもとに、文献研究を進めた。韓国におけるパフォーマンス評価の理論的な研究蓄積がどのように継承され、新たな発展をみせようとしているのかを分析・検討した。

(2) 日韓の小中学校における実地調査・事例分析から、実践指針の構成へ：日韓の小中学校において特徴的な実践を生み出している日本の小中学校や韓国の小中学校を訪問し、授業場面における教育評価の影響について聞き取り調査・研究会などを行った。特に教科外活動に焦点をあて、先進実践事例に関する資料の収集と分析及び授業づくりに関わる教師達の取り組み例や、努力の軌跡なども探り、検討した。

(3) 教科外活動を中心とした「活用」の授業づくり：文献研究や実地調査をもとに構成した実践指針を研究仮説としながら、日韓の小中学校において、特に、日本の小学校が直面している課題である外国語活動(英語)及び道徳科を中心にしたアクション・リサーチ調査を進めた。パフォーマンス課題を提示することで成立した思考の必然性を持続させ、認識と思考の質を高めるために、教師がどのように指導を行う必要があるのかを分析・検討した。現在は、パフォ

パフォーマンス課題を開発したり、教室に真正の学びを実現する授業を創造したりするとともに、研究仮説としての実践指針をより実践的なものへと練り直しているところである。

4. 研究成果

(1) 韓国の一次資料による文献調査においては、韓国におけるパフォーマンス評価の理論的な研究蓄積(1997年から2018年まで)がどのように継承され、新たな改善や発展をみせようとしているのかを検討した(学術図書、学術図書)。具体的には、子どもの「思考力・判断力・表現力」を育むための手法の一つとして注目を集めているパフォーマンス評価の理論と実践の変遷を明らかにした。また、韓国におけるパフォーマンス評価を教育政策に取り入れた韓国の事例を紹介するとともに、日本に関する研究動向や課題などを明らかにした(学術図書、雑誌論文)。

(2) 日韓の小中学校における実地調査・事例分析においては、日韓の小中学校において先進的な教育実践を生み出している日本の小中学校(愛知教育大学附属小中学校、名古屋市立東海小学校、みよし市立三好中学校、甲賀市立水口中学校など)や韓国の小中学校(ソウル大学校師範大学附属初等学校、京仁教育大学校附属初等学校、Incheon Gulpo Elementary School、Haewon Middle School、Majeon Middle Schoolなど)を訪問(日韓研究者、校長及び小中学校教師など)し、パフォーマンス評価におけるカリキュラムや日々の教育評価の中で具体的にどのような困難に直面しているのかななどを調査・分析していた(学術図書、学術図書)。

(3) 教科外活動を中心とした「活用」の授業づくりにおいては、日韓の小中学校において、特に、日本の小学校が直面している課題である道徳科を中心としたアクション・リサーチ調査を進めた。特に、道徳教育における教育評価の意義は、児童生徒が、自分自身の道徳的成長を実感し、教師も児童生徒の学習状況を把握し、教育評価することを通して、改めてカリキュラムや教育方法の授業改善に繋げることにについて検討した(学術図書、学術図書)。

最後に、本研究に残された課題は、教師の専門性の質的变化を追求することである。日韓の小中学校では、基本的にパフォーマンス評価に関わる教育活動は教師の専門性に依拠しており、個別の教師によって作成されたカリキュラムに従って教師の評価権が確保されている。すなわち、「何を教えるのか」は教師各人なりの専門性によらねばならない。今後の課題としては、パフォーマンス評価実践の前後を探りながら、教師の専門性の変化及びパフォーマンス評価であるからこそ得られる新しい教育的な効果は何であるのかを明らかにしていくことである。

【雑誌論文・学術図書】

趙卿我「韓国におけるパフォーマンス評価の理論的潮流」『グローバル化時代の教育評価改革』日本標準、2016年、pp.160-171。

趙卿我「第11章第3節 評価の方法」『教職をめざす人のための教育課程論』北大路書房、2017年、pp.155-160。

趙卿我「特別活動に関する教育政策の変遷」『特別活動と生活指導』協同出版、2017年、pp.5-21。

趙卿我「特別活動の理論と評価」『愛知教育大学教職キャリアセンター紀要』【査読あり】第2号、2017年、pp.51-60。

趙卿我「子どもの評価」『教科と総合の教育方法・技術』学文社、2019年、pp.146-162。

趙卿我「道徳科における評価」『道徳教育』ミネルヴァ書房、2019年、pp.143-158。

趙卿我「学力・能力観をめぐる教育改革」『子どもの幸せを実現する学力と学校』学事出版、

2019年、pp.103-129。

趙卿我「海外のカリキュラム実践からの示唆」『現代カリキュラム研究の動向と展望』
教育出版（日本カリキュラム学会編）2019年、pp.231-234。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 趙卿我	4. 巻 2
2. 論文標題 特別活動の理論と評価	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 愛知教育大学教職キャリアセンター紀要	6. 最初と最後の頁 51 - 60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 趙卿我	4. 巻 第45巻
2. 論文標題 <書評> 申智媛著『韓国の現代学校改革研究 1990年代後半の教師たちを中心とした新しい学校づくり』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『教育方法学研究』日本教育方法学会紀要	6. 最初と最後の頁 113-114
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 7件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 趙 卿我
2. 発表標題 「求められる学力の内実とその育成に向けた取り組みに関する研究 - 韓国の事例」
3. 学会等名 オセアニア教育学会第21回大会（課題研究発表）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 趙 卿我
2. 発表標題 「大学教育における 学習カリキュラムと教育評価」
3. 学会等名 日韓学術フォーラム（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 趙 卿我
2. 発表標題 「カリキュラムを表現するものとしての評価課題」
3. 学会等名 国際多文化研究と学際的教育の国際シンポジウム（中国）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 趙 卿我
2. 発表標題 「教育評価の変遷について」
3. 学会等名 大学FD（福山女学園大学）（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 趙 卿我
2. 発表標題 「学生の学びを創る教育評価」
3. 学会等名 大学FD（清泉女学院大学）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 趙卿我
2. 発表標題 「教育評価について」
3. 学会等名 静岡県専任教員養成講習会研修（公益社団法人静岡県看護協会）（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 趙卿我
2. 発表標題 「教育評価の意義」
3. 学会等名 小牧市教職員研修（小牧市教育センター）（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 趙卿我
2. 発表標題 「教育評価のあり方について」
3. 学会等名 静岡県専任教員養成講習会研修（公益社団法人静岡県看護協会）（招待講演）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計9件

1. 著者名 趙卿我	4. 発行年 2019年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 182
3. 書名 『教科と総合の教育方法・技術』「第9章 子どもの評価」	

1. 著者名 趙卿我	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 239
3. 書名 『道徳教育』「第9章 道徳科における評価」	

1. 著者名 趙卿我	4. 発行年 2019年
2. 出版社 学事出版	5. 総ページ数 174
3. 書名 『子どもの幸せを実現する学校教育』「第4章 学力・能力観をめぐる教育改革」	

1. 著者名 趙 卿我	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 230
3. 書名 『よくわかる教育課程 改訂新版』「特別活動」「戦後『新教育』期の教育課程」「1947年版学習指導要領（試案）：平和と民主主義を求めて」「1947年版学習指導要領（試案）：経験主義教育のいっそうの推進」「韓国のカリキュラム」	

1. 著者名 趙卿我	4. 発行年 2017年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 246
3. 書名 『特別活動と生活指導』 「第1章 特別活動に関する教育政策の変遷」	

1. 著者名 趙卿我	4. 発行年 2019年
2. 出版社 教育出版	5. 総ページ数 402
3. 書名 『現代カリキュラム研究の動向と展望』「第14章1節 海外のカリキュラム実践からの示唆（韓国）」	

1. 著者名 趙 卿我	4. 発行年 2016年
2. 出版社 日本標準	5. 総ページ数 292
3. 書名 『グローバル化時代の教育評価改革』 「第3章1節 韓国におけるパフォーマンス評価の理論的潮流」	

1. 著者名 趙 卿我	4. 発行年 2019年
2. 出版社 日本標準	5. 総ページ数 244
3. 書名 『新指導要録改訂のポイント』 「韓国の教育改革における教育評価の取り組み」	

1. 著者名 趙 卿我	4. 発行年 2017年
2. 出版社 北大路書房	5. 総ページ数 235
3. 書名 『教職をめざす人のための教育課程論』 「第11章第3節 評価の方法」	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----